

学校教育目標

笑顔で

かしこく

たくましく

# 上谷の丘

～ 本当の笑顔と学びがある学校を ～

坂戸市立上谷小学校 学校だより

令和4年3月25日 NO. 26

文責 校長 柴崎 利美

児童数182名（3月25日現在）

## ご卒業、おめでとうございます

～ まっすぐ進め、誠実に進め、堂々と進め ～

あっという間の年月です。多くの卒業生が4月からは自転車で登校するのですね。上谷小卒業の先輩たちは少数派ながら中学校で大変活躍していますよ。先日も吹奏楽部で活躍しているある先輩から、アンサンブルコンテストの西関東大会に出場したという報告を受けました。西関東大会とは県大会のその先です。全国大会の一つ手前です。大変立派な活躍です。

何の世界でも、誠実な姿勢を持つ人が最後は伸びると言います。大人の世界に入るとまさにその通りと、どんな分野でもそう実感します。誠実に物事にあたれる人は、ごまかしがありませんから、失敗しても失敗したその部分をそのまま直せばいいのです。調子よくごまかす人は、ごまかしをさらにごまかして正当化するので、何を直したらいいのかわかりません。結局、立て直すのに何倍も時間と手間がかかってしまいます。上谷っ子のみなさんは本当の笑顔を基に誠実で信頼がおけるので、中学校へ行っても伸びしろが大きいのです。自然と伸びていくのです。「信頼がおける」とは「うそをつかず、約束は守る」人のことを言います。お話朝会で何度も触れてきました。みなさんも何度も聴いて、覚えて書いてきました。

在校生のみなさんも、活躍する上谷っ子の先輩を見習って、これまで以上に誠実に学習やお友達関係、毎日の生活に取り組んでいきましょう。



### ◇◇ 卒業式の式辞から（抜粋） ◇◇

～皆さんに伝えたいことがあります。それは「価値を作り出す人」になってほしいという私の願いです。昨年、大谷翔平というメジャーリーガーがとてつもないことをやってのけました。「二刀流」に挑戦し、これまでの野球の在り方も規格も記録も想像もできない、人が考える物語やアニメさえ追いつかない「夢」を現実の出来事として世界中に示してくれました。同じ日本人として胸が震える強い思いを持つのは、みなさんも同じでしょう。彼は、今までにない形を作りました。それは投手として同時に打者として同じ試合に出場することです。世界最高峰のメジャーリーグで、それはあり得ない事だとされてきました。その形を壊したのです。「できるわけがない」を「できる」に変換したのです。さらに驚くことはホームラン王と二桁勝利投手の同時獲得にまで、王手をかけたことです。これらの活躍はもちろん一朝一夕にできたわけではない。高校時代からの用意周到な計画を確実に実行し、一つ一つ実現していったから、結果としてその成果がついてきた。世にいう「目標達成シート」の実行・継続です。その中には公私にわたる細かい目標設定もありました。だから、チームのメンバーともお互い高め合い、認め合うことができたのです。

まさに「新しい価値」と思える出来事を二つ紹介します。ペナントレースも大詰めになっ



た頃、大谷選手は自分の投手としての勝利記録よりもチームの勝利を優先しました。いくらチームが低迷していてもです。

二つ目はオフシーズンであっても、NHKはじめメディアの出演や国内の様々な栄誉を讃える行事を丁重に断り、来年に向けての自分の練習メニューを優先させたことです。

これらのことは、なかなかできることではない。当然・当たり前と思われていたものが変わっていく。「新しい価値」が作られて行くということです。大谷選手が本当の笑顔で、そして身をもって示しています。みなさんは大谷選手に学ぶことは多いと思います。みなさんそれぞれの立場、それぞれのやり方で「新しい価値」を少しずつ生み出し、少しずつ世の中を変えていく。そうしていくべきなのです。そうする時代なのです。巣立つ皆さんに、大いに期待します。～

## 「ダチョウの卵」顛末記

昨年10月に塚越にある「モーモーさん家」にダチョウの卵を予約しました。12月の子ども教室時に野外で子どもたちにさわらせ、持たせ、そして目の前で卵を割って目玉焼きか卵焼きかする予定でした。子ども教室直前になっても卵を産まないというので、子ども教室での「ダチョウの卵イベント」は諦めました。ところが、3月に入ってすぐに「産まれた」との連絡が入りましたので、とにもかくにも卵をいただいてきました。



が、さてどうしよう?! いろいろと相談して17日(木)の朝に割って卵焼きにしよう、学年で分割してひとかけらでも食べてもらおう。たぶん黄身が大きくて迫力満点だろうから、朝の学級タイムに学年ごとに一列に並んで見学してもらおう。ということになりました。ということは、朝の8時には卵を割っておかなければならない。しかし、誰も割ったことがない。大きい黄身を子供達に見せるのだから、黄身を破いてはいけません。もちろん鶏卵のようにはいくはずもない。考えた挙句、電動ドリルで空気室まわりに沿って小さい穴をいくつもあけ、まずはその蓋を外そう。そこまでやって次を考えよう。かくして教頭先生に卵を押さえてもらいながら、直径2ミリほどの穴を空気室であろう場所の周囲に開けていきました。何人かの先生が見守る中、「おお」というどよめきの中、直径5センチほどの穴をあけました。思ったとおり空気室の内側で、削りかすは卵白の中には入りませんでした。



その後、卵のまわりをペキペキ割っていき、程よく開いたところで家庭科主任の先生に大きめのボールに中味を出してもらいました。卵黄は無事でした。「おおお。でかい。」「どれどれ!」やはり先生方の感動あつての教材です。長机にダチョウの卵(中身)と比較のために鶏卵(中身)を並べ、1年生から見学してもらいました。上谷っ子たちは「うわ」と言いながら、中にはじっと見入りながら見学ができました。その後、無事に卵焼きとして焼き上げ、分割して各クラスで食べてもらいました。とてもコクのある味でした。直径約32センチの卵焼きの分け方については、「校長先生からの挑戦状」で事前に上谷っ子全員に考えさせました。楽しい回答がたくさん寄せられました。昇降口廊下に掲示してあります。(ダチョウの卵の試食にあたっては事前に保護者にはアレルギー等、子供たちの状況で必ずしも食べなくてもいいという十分な主旨説明を行っております。その上での取り組みです。)